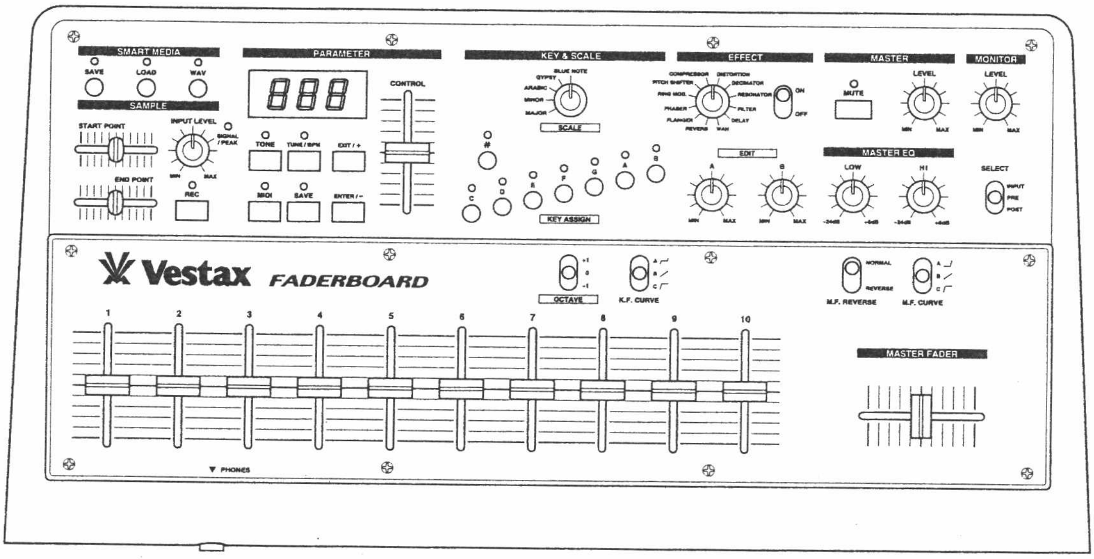
Vestax

FADERBOARD

取扱説明書



Vestax Corporation

ごあいさつ

この度は、ベスタクス FADERBOARD をお買上げ頂きまして誠にありがとうございます。
ご使用の前に、本取扱説明書をよくお読み頂きますようお願い致します。

目 次

ご使用上の注意	2
安全上のご注意	3
本機の特長	3
接続して音を出してみましょう	4
演奏してみましょう	6
ユーザープログラムについて	9
スマートメディアについて	11
MIDI チャンネルと MIDI モードの設定	13
エフェクトについて	14
エラーメッセージ	17
付録	17
保証、アフターサービスについて	20
主な仕様	20

ご使用上の注意

電源について

●雑音を発生する装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器とは、異なるコンセントを使用して下さい。
●接続する際は、動作音、スピーカーなどの破損を防ぐため、必ず全ての機器の電源を切ってから行って下さい。

設置について

●この機器の近くにパワーアンプなどの大型のトランスをもつ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。
　この場合は、この機器との間隔や方向を変えて下さい。
●テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色むらが発生したり、ラジオから雑音が出ることがあります。
　この場合は、この機器を遠ざけて下さい。

お手入れについて

●通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、固く絞った布で汚れを拭き取って下さい。汚れが激しい時は、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きして下さい。
●変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないで下さい。
●故障の原因となりますので、市販の接点復活材、潤滑スプレーの中でもシリコンオイル製のスプレーは使用しないでください。

修理について

●お客さまがこの機器を分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また修理をお断りする場合がございます。
●当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、８年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げの店または、当社商品の取り扱い店にご相談下さい。
●本機の保証期間は１年ですが、クロスフェーダーやインプットフェーダーなどを耐久性の超えた使い方（スクラッチプレイでご使用になった場合など）をされると、通常のパーツの耐久期間が、１ヶ月に短縮されてしまうことがあります。その場合、保証期間内で修理に出されても、消耗部品という判断により、パーツ交換代として実費を請求させていただきます。

その他の注意について

●故障の原因となりますので、スイッチ、ツマミ、入出力端子などに過度の力を加えないで下さい。
●ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐためプラグをもって行って下さい。
●音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は音量に十分注意して下さい。
●輸送や引越しの際は、この機器が入っていた段ボール箱と緩衝材、または同等品で梱包して下さい。

安全上のご注意

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしていますので「安全上のご注意」の内容をよくご理解下さいますようお願い致します。

⚠ 警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、その後電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、その後電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。

- オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる際には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力傷害などの原因となることがあります。
- ５年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談してください。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど湯煙が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

本機の特長

- FADERBOARD とは、“演奏者の感覚をどのように楽器に伝えるか”、“演奏するという行為がおもしろいか”という、楽器において特に重要な音のコントロールを、フェーダーのスライドで行う新しいコンセプトの楽器です。
- フェーダーのスライドでは、発音・持続音・減衰音・音量・エンベロープなどのさまざまな要素を、従来の楽器演奏の常識にとらわれない発想で演奏することが可能です。
- 30 種類の内蔵シンセ音源と、ユーザーが外部機器などから入力しサンプル録音した音源を『KEY FADER』でスケールを持つように設定し演奏が可能な他に、10 セットの内蔵ドラムキット音源でリズムを感覚的に演奏することが可能です。
- PHONO / LINE / MIC の入力端子を持ち、外部機器の音に伴い演奏することや、外部機器の音をサンプル録音することが可能です。

● スマートメディアスロットを装備し、FADERBOARD で作成した音源を保存、読み込みすることや、パソコンで作成した音源を FADERBOARD に読み込み使用することが可能です。

● MIDI 出力端子を装備していますので、本機をマスターにし、外部 MIDI 機器を操作することが可能です。

● 12 種類の内蔵エフェクターを搭載しています。

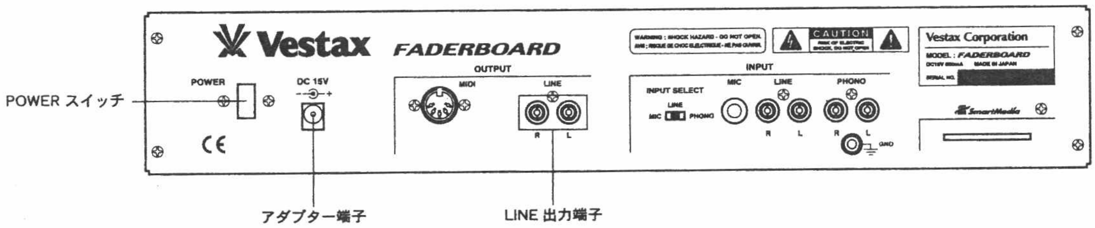
接続して音を出してみましょう

1. 接続する

① 付属の DC アダプターを本体リアパネルの［アダプター端子］に接続し、アダプター本体をコンセントに差し込んでください。

② ［LINE 出力端子］とミキサーやアンプ等の外部機器の LINE 入力端子を接続します。接続が終わったら、［POWER スイッチ］を押し電源を入れてください。

＜リアパネル部＞

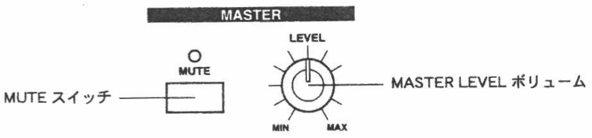


電源 ON/OFF は、アンプ等の接続されている機器のボリュームを下げるか、切った状態で行ってください。

2. 音を出す

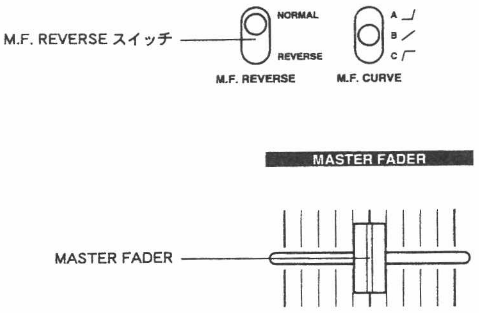
① ［MASTER LEVEL ボリューム］を上げ、［MUTE スイッチ］がオフ状態（LED 消灯）であることを確認します。

［MUTE スイッチ］は LINE 出力からの音を消音することができます。

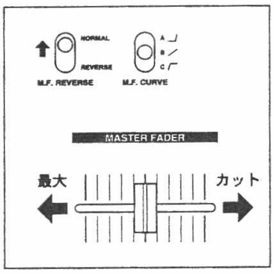


② ［M.F. REVERSE スイッチ］の位置を確認し、［MASTER FADER］のボリューム位置を音声が出力される位置に設定します。

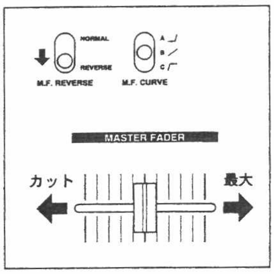
［M.F. REVERSE スイッチ］は［MASTER FADER］の方向を逆転することができます。



M.F. REVERSE スイッチ
“NORMAL” 選択時

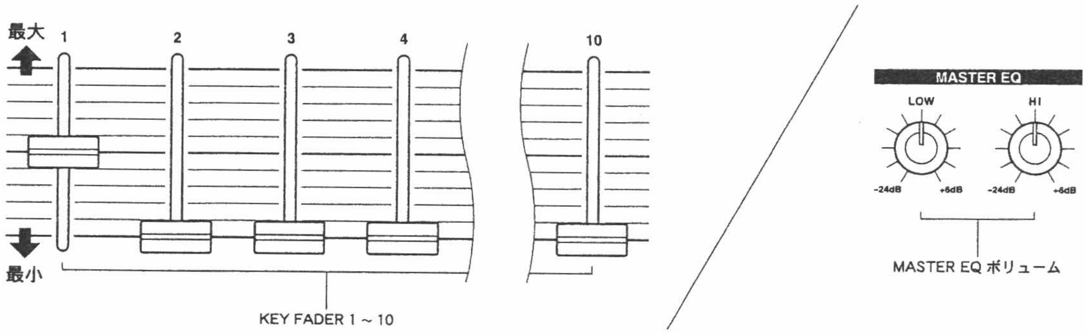


M.F. REVERSE スイッチ
“REVERSE” 選択時



③ [KEY FADER] を上げて音を出し正しく接続されているかどうかチェックします。
[MASTER LEVEL ボリューム] や接続したミキサー、アンプ等の外部機器のレベルボリュームで適度な音量に調整してください。

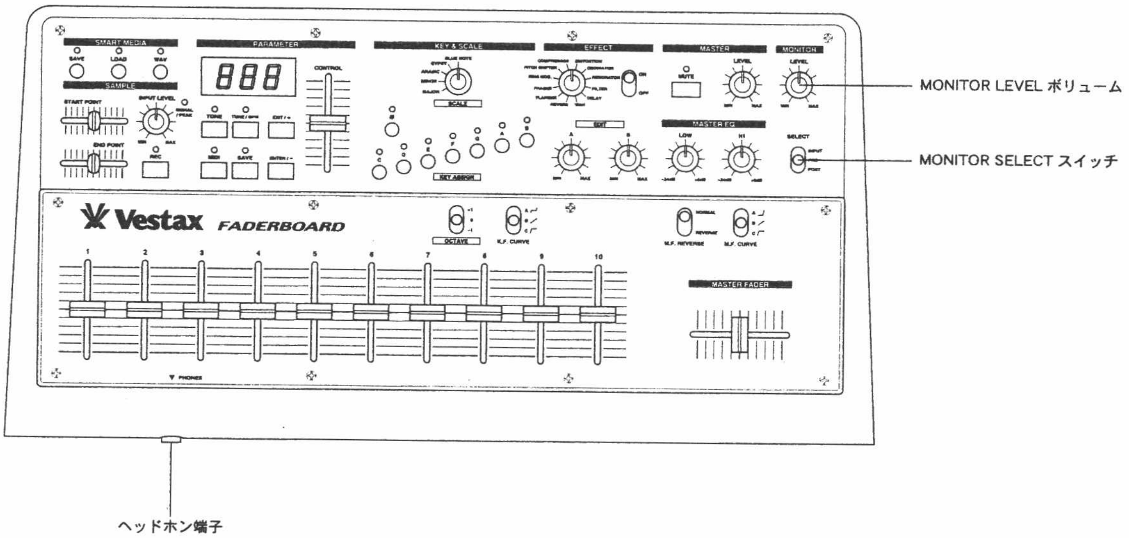
また、[MASTER EQ ボリューム] で、高音域と低音域の音質を調整することができます。



3. ヘッドホンを使用するには

① ヘッドホンを使用するには、まずヘッドホンを本体前面の [ヘッドホン端子] に接続します。

② 次に [MONITOR SELECT スイッチ] でヘッドホンに出力される音声信号を選択し、[MONITOR LEVEL] ボリュームで音量を調整します。



[MONITOR SELECT スイッチ] の機能はそれぞれ以下のようになります。

INPUT	PHONO、LINE、MIC の外部入力の音声信号がヘッドホンから出力されます。 [INPUT LEVEL ボリューム] で音量を調整することもできます。
PRE	[MASTER FADER] の位置に関わらず、全ての音声が出力されます。
POST	LINE 出力される音声と同じ音声が出力されます。 [MASTER FADER] でヘッドホンの出力を消音することはできますが、 [MUTE スイッチ] は無効になります。

演奏してみましょう

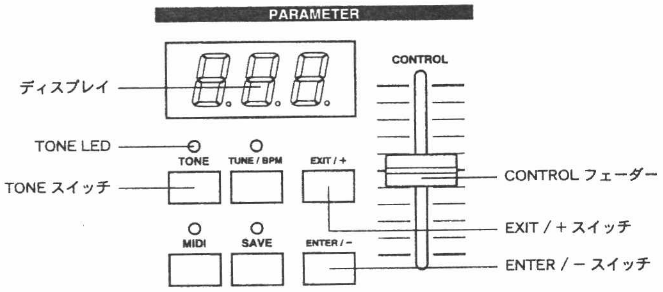
シンセサイザーなど一般的な電子鍵盤楽器の鍵盤に相当する機能を、本機ではフェーダーのスライドにより実現することができます。
FADERBOARD では、これらのスライドフェーダーのことを、[KEY FADER] と呼びます。
FADERBOARD で演奏するにはまず、[KEY FADER] で演奏するトーン（音色）を選択します。次に、10本の [KEY FADER] がどのように進行するか、キーとスケール（音階）を設定し演奏します（ドラムプログラムの際は、キーとスケールの設定はできません）。

1. トーン（音色）の設定

[TONE スイッチ] を押すと [TONE LED] が点灯します。
この状態で [CONTROL フェーダー] を上下に動かしトーンを選択します。

また、[CONTROL フェーダー] ではなく [EXIT / + スイッチ]、[ENTER / − スイッチ] で操作することも可能です。

FADER BOARD にはシンセプログラム 30 種、ドラムプログラム 10 セットの内蔵音源が入っています。また、ユーザープログラム最大10 バンクを作成することが可能です。
ただし、ユーザープログラムは作成されるまで、表示されません。



シンセプログラム	・内蔵シンセ音源：30 種 ・各KEY FADER には、選択された音色が音階をもつように設定されます。 ・詳しくは付録の表1 シンセプログラムを参照してください。	<ディスプレイ表示> S.01～S.30
ドラムプログラム	・内蔵ドラムセット音源：10 セット ・各KEY FADER には、選択されたドラムセットのそれぞれの音が設定されます。 ・詳しくは付録の表2 ドラムプログラムを参照してください。	<ディスプレイ表示> d.01～d.10
ユーザープログラム	・ユーザーがサンプル録音する音源：最大 10 バンク ・サンプル録音した音源は繰り返し（ループ）再生されます。 ・各KEY FADER には、選択された音色が音階をもつように設定されます。 ・詳しくはユーザープログラムについてのページを参照してください。	<ディスプレイ表示> U.01～U.10

2. キー、スケール（音階）の設定　＜シンセプログラム、ユーザープログラムの場合＞

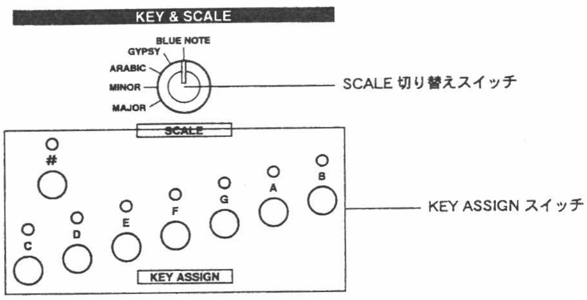
シンセプログラムまたは、ユーザープログラムを選択した際、[KEY FADER] のスケール（音階）を 5 種類の中から選択し、設定することができます。選択したスケールは、1～8 の [KEY FADER] が 1 オクターブになるよう設定されます。スケールを設定するには [KEY ASSIGN スイッチ] と [SCALE 切り替えスイッチ] を合わせて使用します。

ルートキー（スケールの主音、基となる音）の設定

まず、スケールのルートキーを設定します。
[KEY ASSIGN スイッチ] の C～B（ド～シ）までのスイッチから選択すると、選択した [KEY ASSIGN スイッチ] の LED が点灯し、そのキーが [KEY FADER] の 1 に割り当てられます。

演奏の最中にルートキーを切り替えると、出力音のキーも影響されます。

また＃のスイッチを押すと LED が点灯し、ルートキーが＃（半音上）に変更されます。＃を解除するには、＃のスイッチをもう一度押すか、他の [KEY ASSIGN スイッチ] を押します。



]

ルートキーの設定は、C～Bのスイッチと#のスイッチのみで設定されるため、♭（半音下）を設定することができません。この場合#を使用することで、設定したい♭と同じになるように対応します。また、キーによっては#が次のキーと重複する場合があります。詳しくは付録の表3 ルートキー早見表を参照してください。

スケール（音階）の設定

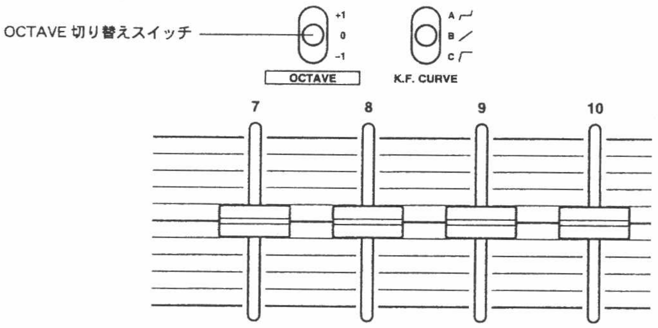
設定したルートキーをもとに、[SCALE 切り替えスイッチ] により、[KEY FADER] のスケール（音階）を選択します。
以下の表は、Cをルートキーにした場合の [KEY FADER] のスケールの割り当てになります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
MAJOR（長調）	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E
MAINOR（短調）	C	D	E♭	F	G	A♭	B♭	C	D	E♭
ARABIC	C	D♭	E	F	G	A♭	B	C	D♭	E
GYPSY	C	D	E♭	F#	G	A♭	B	C	D	E♭
BLUE NOTE	C	D	E♭	F	G♭	A	B♭	C	D	E♭

ARABIC（正式には Double Harmonic Scale）
GYPSY（別称 Hungarian Minor Scale）

注意：MINOR スケールでは HARMONIC MINOR と MELODIC MINOR スケールは設定できませんので、6^{th}と7^{th}で # スイッチを使用してください。

[OCTAVE 切り替えスイッチ] により、±1オクターブの音階の切り替えをすることができます。



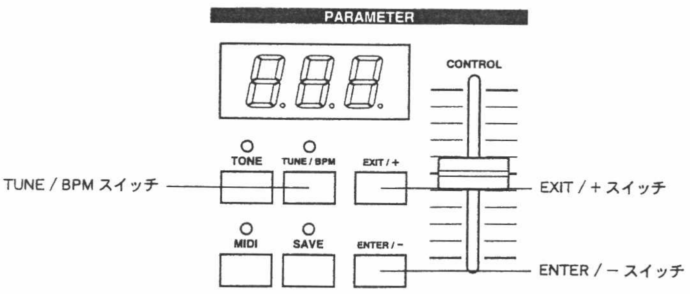
演奏の最中に [OCTAVE 切り替えスイッチ] を切り替えると、出力音のオクターブも影響されます。

オクターブは8つですが、FADERBOARD にはトーンやドラムの演奏の幅を提供するために [KEY FADER] が 10 本あります。
よって、オクターブを変換しても重複する音域が発生します。
詳しくは付録の表5 オクターブ・KEY FADER 対応表を参照してください。

3. ピッチ、BPM（テンポ）の設定

ピッチの設定　<シンセプログラム、ユーザープログラムの場合>

トーン設定がシンセプログラム、またはユーザープログラムの場合、[TUNE / BPM スイッチ] を一回押すと LED が点灯し、[CONTROL フェーダー] で±半音（±100セント）のピッチを2セント刻みで変えることができます。



また、[CONTROL フェーダー] ではなく [EXIT / + スイッチ]、[ENTER / − スイッチ] で操作することも可能です。

演奏の最中にピッチを変えると、出力音のピッチも影響されます。

BPM の設定　<ドラムプログラムの場合>

トーン設定がドラムプログラムの場合、[TUNE / BPM スイッチ] を一回押すと LED が点灯し、[CONTROL フェーダー] で BPM を変えることができます。

また、[CONTROL フェーダー] ではなく [EXIT / + スイッチ]、[ENTER / - スイッチ] で操作することも可能です。

演奏の最中に BPM を変えると、出力音の BPM も影響されます。

ドラムプログラムは、初期設定で BPM は 0 に設定されているためループ再生されません。この場合、[KEY FADER] のレベルを一回上げると、ドラム音が 1 回再生されます（ワンショット再生）。BPM を 0 以上に設定するとその BPM でループ再生されるようになります。

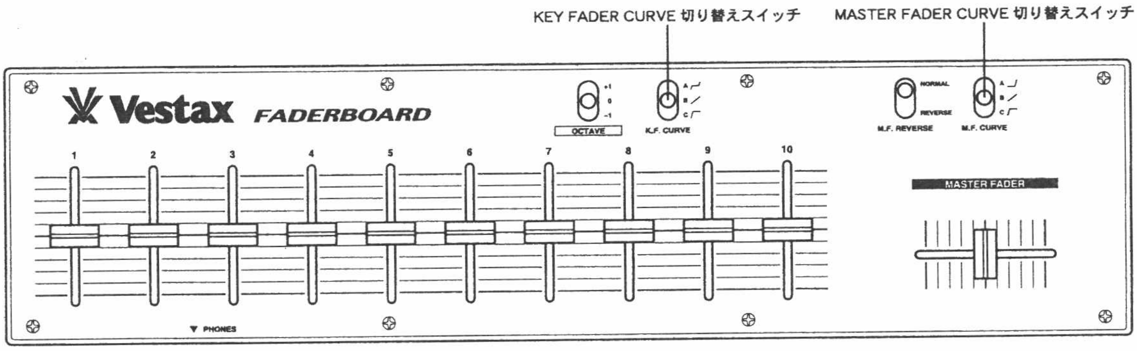
BPM 範囲は、0 ～ 999 まで設定できます。ただし BPM によって微調整ができない範囲があります。
詳しくは付録の表 6 BPM設定一覧を参照してください。

CONTROL フェーダーのプロテクト機能について

トーン設定とピッチ／ BPM 設定の切り替え時には、[CONTROL フェーダー] にプロテクト機能が働きます。例として、ピッチ／ BPM 設定で [CONTROL フェーダー] を動かした後に、トーン設定に戻って、[CONTROL フェーダー] を使ってトーンを選択する場合、[CONTROL フェーダー] が現在選択されているトーンの位置を通過してから、トーンの変更が可能になります。この機能は、ピッチ／ BPM の変更によって、意図しない音源の切り替えを避けるためです。
なお、[EXIT / + スイッチ]、[ENTER / - スイッチ] を使用してプログラム（トーン、ピッチ／BPM）を変更した場合は、スイッチが押された段階でプロテクト機能は解除され、プログラムを変更することができます。

4. フェーダーカーブの設定

[KEY FADER] および [MASTER FADER] は、音量変化のカーブを演奏の用途に応じて、切り替えることができます。



KEY FADER カーブの設定

[KEY FADER CURVE 切り替えスイッチ] で、[KEY FADER] の音量カーブを 3 段階に切り替えることができます。
設定は以下の通りです。

A　フェーダーの前半では緩やかに、フェーダーの後半で音量が急速に大きくなります。

B　フェーダーの動きに応じ、一定に音量が大きくなります。柔らかい音を演奏をする場合や、自然に音を重ねていく場合などに効果的です。

C　フェーダーの始まりで急速に音量が大きく出ます。ドラムプログラムなどの単音を演奏する場合や、素早い連符を演奏する場合などに効果的です。

MASTER FADER カーブの設定

[MASTER FADER CURVE 切り替えスイッチ] で、[MASTER FADER] の音量カーブを 3 段階に切り替えることができます。
設定は以下の通りです。

A　フェーダーの前半では緩やかに、フェーダーの後半で音量が急速に大きくなります。

B　フェーダーの動きに応じ、一定に音量が大きくなります。

C　フェーダーの始まりで急速に音量が大きく出ます。

ユーザープログラムについて

ユーザープログラムとは、PHONO、LINE、MIC のいずれかの外部入力から FADERBOARD にサンプル録音したり、スマートメディアから FADERBOARD に読み込んだり、FADERBOARD での再生音をサンプル録音するなどの、ユーザーがサンプル録音し、保存した音源のプログラムのことです。

これらの音源は FADERBOARD 内のバンクファイルに保存され、 FADERBOARD のトーン（音色）の一部、ユーザープログラムとして演奏に使用することができます。

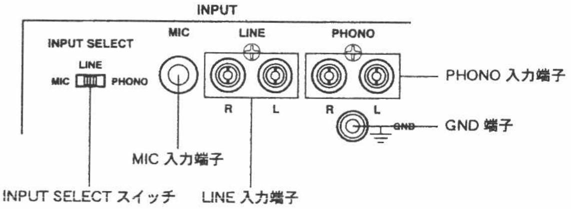
ユーザープログラムは、最大 10 バンク（U.01~U.10）作成することができます。
10 バンク（U.01~U.10）合計のサンプリングタイムは、最大約 30 秒になります。例えば、 1 バンクに 30 秒サンプリングしたり、10 バンク（U.01~U.10）に 3 秒間づつサンプリングしたりと自由に設定することができます。

1. ユーザープログラムをサンプル録音する

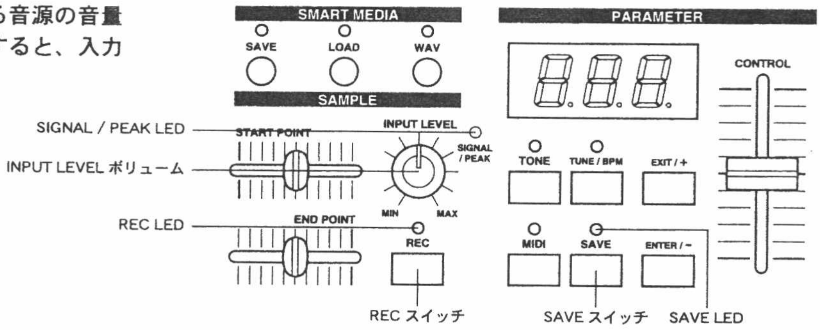
① FADERBOARD のリアパネルの入力端子に外部機器を接続し、[INPUT SELECT スイッチ] で使用する外部入力音を選びます。

ターンテーブルを接続する際はアース線を [GND 端子] に接続してください。

外部機器からの入力音に限らず、FADERBOARD の演奏、もしくは外部機器の入力音に FADERBOARD の演奏を重ねたものもサンプル録音することが可能です。

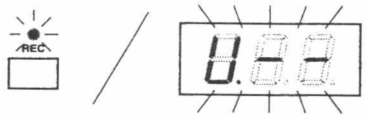


② [INPUT LEVEL ボリューム] でサンプル録音する音源の音量を調整します。[SIGNAL / PEAK LED] が点灯すると、入力の音量が大きすぎて音が割れることがあります。



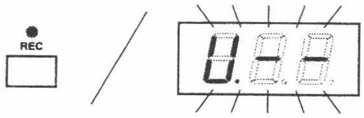
③ [REC スイッチ] を 1 回押すとサンプル録音スタンバイ状態になります。
サンプル録音スタンバイ状態を解除するには [TONE スイッチ] または [EXIT / − スイッチ] を 1 回押してください。

REC LED 点滅、ディスプレイに " U.-- " が点滅します。



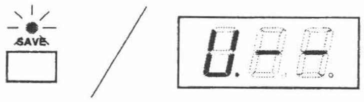
④ [REC スイッチ] をもう 1 回押すとサンプル録音が開始されます。
サンプル録音を開始するタイミングで、外部入力からサンプル録音する音源を再生するか、FADERBOARD でサンプル録音する演奏を行います。

REC LED 点灯、ディスプレイに " U.-- " が点滅します。



⑤ [REC スイッチ] を再度押すとサンプル録音が終了し、[SAVE スイッチ] が点滅します。

SAVE LED 点滅、ディスプレイに " U.-- " が点灯します。



サンプル録音したデータは、この段階ではバッファーに一度入力されますが、完全にメモリーに保存されていません。[CONTROL フェーダー] を動かしたり、[EXIT / − スイッチ] するとデータはリセットされます。

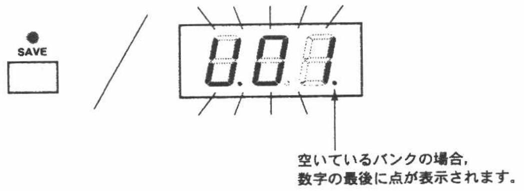
2. サンプル録音した音源を保存する

① サンプル録音が終了するとサンプルを [KEY FADER] で確認することができます。録音したサンプル音のみを確認するには、[INPUT LEVEL ボリューム] で外部機器の入力音を下げるか、外部機器の再生を止めてください。
[OCTAVE 切り替えスイッチ] が 0 の時、1 の [KEY FADER] で、サンプルが入力音と同じピッチで再生されます。

② SAVE スイッチを押すと [SAVE LED] が点灯し、通常は空いているバンクで一番若い数字のバンクナンバーが [ディスプレイ] に点滅します。[CONTROL フェーダー] を使用して、サンプル録音した音を保存するバンクナンバーを選択します。

空いているバンクには数字の最後に点が表示されます。すでに使用されているバンクには数字の最後に点が表示されません。また、すでに使用されているバンクに上書き保存することもできます。

SAVE LED 点灯、ディスプレイに バンクナンバー が点滅します。



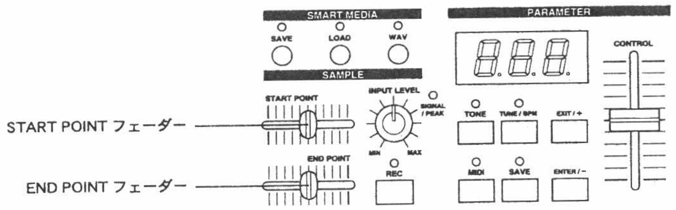
③ 次に、[ENTER / - スイッチ] を押すと保存が始まり、[ディスプレイ] が回転表示をします。回転が止まると保存終了になります。

④ サンプル録音し保存した音源は、ユーザープログラムとして使用することができます。[TONE スイッチ] を押し、[CONTROL フェーダー] で選択してください。

サンプル録音を保存する時に、内部メモリーのデータの最適化をしているため時間がかかることがあります。

3. START POINT / END POINT を設定する

録音したサンプル音は、[START POINT フェーダー] と [END POINT フェーダー] を操作して開始位置と終了位置を調整し再生範囲を変更することができます。



① 再生範囲の変更は、[KEY FADER] を上げサンプル音を再生させながら、[START POINT フェーダー] と [END POINT フェーダー] を操作して設定します。この時、[SAVE LED] が点灯します。
また、[START POINT フェーダー] と [END POINT フェーダー] の位置が左右入れ替りますと、サンプル音はリバース再生されます。

② 再生範囲を変更後、保存をする場合は、ユーザープログラムのバンクナンバーを選択し、[SAVE スイッチ] を押すと、[SAVE LED] が点灯し、[ディスプレイ] の表示が点滅します。

③ 次に、[ENTER / - スイッチ] を押すと保存が始まり、[ディスプレイ] が回転表示をします。回転が止まると保存終了になります。

ユーザープログラムの再生範囲を変更し、上書き保存する場合、新しい再生範囲に含まれていない部分は完全に消去されますのでご注意ください。完全に上書き保存をしたくない場合は、違うバンクに保存してください。

4. ユーザープログラムの消去

① ユーザープログラムを消去するには、まず消去したいバンクナンバーを [CONTROL フェーダー] で選択します。

② [TONE スイッチ] と [SAVE スイッチ] を同時に押すとバンクナンバーの表示が点滅します。

③ 次に、[ENTER / - スイッチ] を押すと消去が始まり、[ディスプレイ] が回転表示をします。回転が止まると消去終了になります。

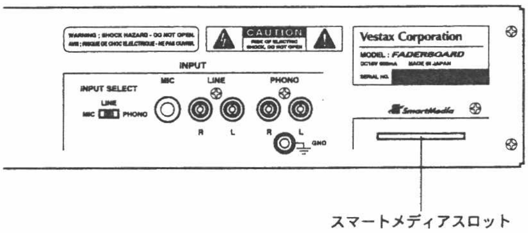
スマートメディアについて

スマートメディアを使用し、FADERBOARD で作成したユーザープログラムを保存することができます。また、パソコンなどからスマートメディアに保存した WAV 形式のファイルを、FADERBOARD に読み込みユーザープログラムとして使用することもできます。

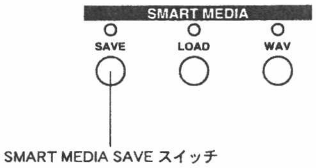
スマートメディアをフォーマットする

スマートメディアを FADERBOARD でご使用できるようにフォーマットをします。

① [スマートメディアスロット] にスマートメディアを挿入します。



② [SMARTMEDIA SAVE スイッチ] を押します。
スマートメディアがフォーマットされていないときや、正しく認識されないときは『For』と表示されます。



③ フォーマットするときは、[ENTER / − スイッチ] を押します。
(フォーマットしないときは、[EXIT / + スイッチ] を押すかカードを抜きます。)

フォーマットをするとスマートメディアの内容はすべて失われます。

FADERBOARD 以外の機器でフォーマットをしたスマートメディアは、正しく認識できないことがあります。その際は、FADERBOARD で再フォーマットをしてください。

ユーザープログラムのバンクすべてをスマートメディアに保存する

**ユーザープログラムのスマートメディアへの保存はバンク一つずつではできません。ユーザープログラムのバンクすべてを"バンクファイル"としてスマートメディアへ保存します。
また、バンクファイルの容量は、バンクの数、時間に関わらず 1152 KB になります。**

① [スマートメディアスロット] にスマートメディアを挿入します。

② [SMART MEDIA SAVE スイッチ] を押します。

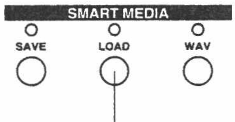
③ [ディスプレイ] に保存先のバンクファイルナンバーが表示されます。
[CONTROL フェーダー] を使用して、バンクファイルナンバーを 1 ～ 9 のうちから選択します。

『-1-』のように表示されている場合は、空いているバンクファイルで、『[1]』のように表示されている場合はすでにデータが保存されているバンクファイルになります。データが保存されているバンクファイルを選択した場合は、データが上書き保存されます。

④ [ENTER / − スイッチ] を押して保存を実行します。保存が終了すると表示が保存実行前の状態に戻ります。
スマートメディア上には『1. FB』～『9. FB』というファイル名でセーブされます。

スマートメディアのバンクファイルごとユーザープログラムへ読み込む

① [SMART MEDIA LOAD スイッチ] を押します。



② [ディスプレイ] にバンクファイルナンバーが表示されます。
[CONTROL フェーダー] を使用してバンクファイルを選択します。

③ 再度 [SMART MEDIA LOAD スイッチ] を押すと [ディスプレイ] に『ALL』と表示されます。このとき [SAVE LED] が点灯します。

④ [ENTER / - スイッチ] を押すと読み込みが開始されます。終了すると表示が元に戻ります。

スマートメディアのバンクファイルの中からバンクをユーザープログラムへ読み込む

① [SMART MEDIA LOAD スイッチ] を押します。

② [ディスプレイ] にバンクファイルナンバーが表示されます。[CONTROL フェーダー] を使用してバンクファイルを選択します。

③ 再度 [SMARTMEDIA LOAD スイッチ] を押すと [ディスプレイ] に『ALL』と表示されます。このとき [SAVE LED] が点灯します。

④ [CONTROL フェーダー] でバンクファイル内のバンクを選択し、表示させます。このとき [SAVE LED] が点滅します。

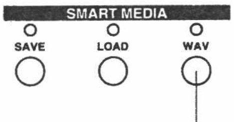
⑤ もう一度 [SMART MEDIA LOAD スイッチ] を押すと、表示されているバンクを読み込み、再生します。[SMART MEDIA LOAD スイッチ] を押すたびに繰り返し再生します。

⑥ [SAVE スイッチ] を押すと、[SAVE LED] が点灯し、読み込み先のユーザープログラムのバンクナンバーが表示されます。
[CONTROL フェーダー] で読み込み先バンクナンバーを選択します。

⑦ [ENTER / - スイッチ] を押すと読み込みが開始されます。終了するとトーン設定の状態に戻ります。

スマートメディアの WAV ファイル、 AIFF ファイルをユーザープログラムへ読み込む

① [SMART MEDIA WAV スイッチ] を押します。



② [CONTROL フェーダー] でファイルを選択し、表示します。
このとき [SAVE LED] が点滅します。

③ もう一度 [SMART MEDIA WAV スイッチ] を押すと、表示されているバンクを読み込み、再生します。[SMART MEDIA WAV スイッチ] を押すたびに繰り返し再生します。

④ [SAVE スイッチ] を押すと、[SAVE LED] が点灯し、読み込み先のユーザープログラムのバンクナンバーが表示されます。
[CONTROL フェーダー] で読み込み先バンクナンバーを選択します。

⑤ [ENTER / - スイッチ] を押すとロードが開始されます。終了するとトーン設定の状態に戻ります。

WAV ファイル、AIFF ファイルの作成のしかた

FADERBOARD のユーザープログラムで読み込むためには以下のようにファイルを作成してください。

・WAV ファイル形式もしくは、AIFF ファイル形式

・8 bit もしくは、16 bit のモノラル

・00 ~ 99.wav もしくは、00 ~ 99.aif のように、ファイル名は、2 桁の数字（1 の場合は 01 のように）と拡張子を付けたものにしてください。同じ 2 桁の WAV ファイルと AIFF ファイルが両方存在する場合には、WAV ファイルが優先されます。

・FADERBOARD 側で音量調整することはできません。ファイルを作成する際に音量を調整してください。

・サンプリング周波数は、32 KHz の際、FADERBOARD で同じピッチで再生されます。その他の周波数で作成した際は、ピッチが異なって再生されます。その際は、FADERBOARD 側でピッチを調整してください。

・8 bit 32 K バイトもしくは、16 bit 64 K バイトの WAV ファイル、AIFF ファイルで約 1 秒間 FADERBOARD に読み込ませることができます。

● Smart Media™ は（株）東芝の登録商標です。

MIDIチャンネルとMIDIモードの設定

MIDI とは、「Musical Instrument Digital Interface」の略で、電子楽器間でデータを送受信するための規格です。
FADERBOARD では、MIDI モードで接続した外部の MIDI 機器を FADERBOARD をマスターとして演奏することができます。

外部の MIDI 機器の同期に関する設定は、ご使用になる機器の取扱説明書を参照してください。

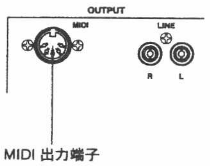
1. MIDI チャンネルの設定

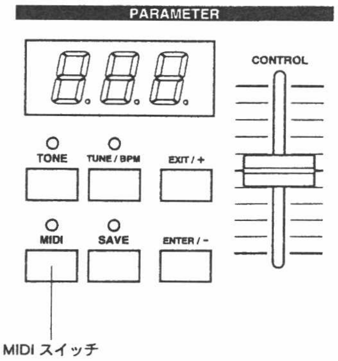
① FADERBOARD の [MIDI 出力端子] と外部機器の MIDI 入力端子を接続します。

② [MIDI スイッチ] を押すと [MIDI LED] が点灯し、MIDI チャンネルを設定することができます。

③ [CONTROL フェーダー] で 1~16 の MIDI チャンネルを選択し、受信側の各機材のチャンネルに合わせてください。
[CONTROL フェーダー] を動かし、チャンネルを選択すると、[SAVE LED] が点滅します。
MIDI チャンネルがすでに設定されている場合、設定された番号を選択しても [SAVE LED] は点滅しません。

④ [SAVE スイッチ] を押すと、[ディスプレイ] に『 - 』と表示され、[ENTER / + スイッチ] を押すと MIDI チャンネルが設定されます。





2． MIDI モードの設定

① [MIDI スイッチ] を 1 秒以上押していると、[MIDIモード] の設定に入ります。

② [CONTROL フェーダー] でノートナンバーの出力フォーマットを『 nt1 』、『 nt2 』の 2 種類から選択します。

ノートナンバーの出力フォーマットは、それぞれ以下のようになります。

『 nt1 』　[OCTAVE 切り替えスイッチ]、[KEY ASSIGN スイッチ]、[SCALE 切り替えスイッチ] で設定した [KEY FADER] の音程通りのノートナンバーが [MIDI 出力端子] から出力されます。FADERBOARD の [CONTROL フェーダー] を動かすことで受信側の機材のプログラム（トーン）を切り替えることができます。

『 nt2 』　各 [KEY FADER] に固定のノートナンバーがアサインされます。ノートナンバーは、35〜64になり、[OCTAVE 切り替えスイッチ] を使用して以下のように設定します。一般的なサンプラーのノートナンバーに相当します。

・OCTAVE 切り替えスイッチ	-1	35〜44
・OCTAVE 切り替えスイッチ	0	45〜54
・OCTAVE 切り替えスイッチ	+1	55〜64

③ [SAVE スイッチ] を押すと、[ディスプレイ] に『 - 』と表示され、[ENTER / + スイッチ] を押すと MIDI モードが設定されます。

無音プログラムについて

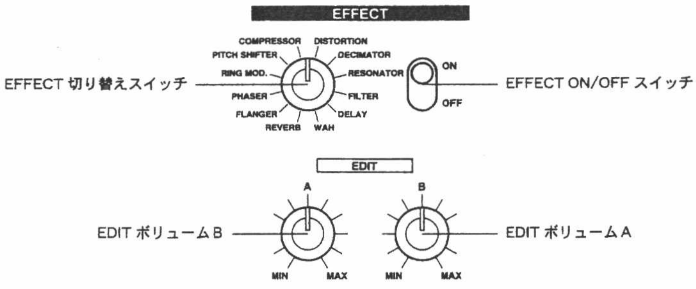
トーンのドラムプログラム『d.10 』の後に無音のプログラム（ディスプレイ表示『---』）が入っています。
FADERBOARD の音声信号を出さずに、MIDI 出力信号のみを出力したい際に使用します。FADERBOARD とMIDI 接続した外部 MIDI 機器の音声のみを本機の [LINE 入力端子] に戻し、本機のエフェクトを使用し [LINE 出力端子] から出力する際に選択してください。
外部 MIDI 機器の出力が FADERBOARD の出力と別である場合は、本機の [MUTE スイッチ] を使用して演奏することも可能です。

エフェクトについて

FADERBOARD の内蔵エフェクトは 12 種類あります。エフェクトを利用すると、出力音にさまざまな効果を加えることができます。

エフェクトの種類の切り替えは [EFFECT 切り替えスイッチ] で、エフェクトのオン、オフは [EFFECT ON/OFF スイッチ] で行い、演奏の最中でも適用されます。

選択したエフェクトは [EDIT ボリューム A]、[EDIT ボリューム B] を使用してパラメータを設定します。



パラメータはそれぞれのエフェクトにより異なります。
また、エフェクトの種類変更時、エフェクトがかかり始めるのに時間がかかることがあります。

エフェクトの種類とパラメータ

REVERVE（リバーブ）

プレート・リバーブの残響や臨場感をシミュレートしています。

EDIT A ＜タイム＞　ツマミを右に回すほど、残響の時間が長くなります。

EDIT B ＜レベル＞　ツマミを右に回すほど、残響音のレベルが大きくなります。

FLANGER（フランジャー）

フランジャー、コーラスは音をわずかに遅らせて音程を揺らし、原音と混ぜ合わせることで音にうねりや広がり、ビブラート感を与えます。デプスを上げすぎると音が歪む場合があります。

EDIT A ＜LFO レイト＞　フランジャー／コーラスの LFO のスピードを調整します。ツマミを右に回すほど LFO のスピードが速くなります。

EDIT B ＜デプス＞　フランジャー／コーラスの効果の深さを調整します。ツマミを右に回すほど、コーラスからフランジャーの効果に変化します。デプスを上げすぎると音が歪む場合があります。

PHASER（フェイザー）

位相を周期的に変化させた音を原音に混ぜ合わせることによって、音にうねりを与えます。

EDIT A ＜LFO レイト＞　フェイザーの LFO のスピードを調整します。ツマミを右に回すほど LFO のスピードが速くなります。

EDIT B ＜デプス＞　フェイザーの深さを調節します。ツマミを右へ回すほど、音のうねりが大きくなります。

RING MOD.（リング・モジュレーション）

音に変調をかけて金属的な響きや効果音的なニュアンスを加えます。

EDIT A ＜フリケンシー＞　変調をかける周波数を設定します。ツマミを右に回すほど周波数が高くなります。

EDIT B ＜バランス＞　エフェクト音とダイレクト音のバランスを設定します。ツマミを右に回すほどエフェクト音が大きくなり、ダイレクト音が小さくなります。

PITCH SHIFTER（ピッチ・シフター）

音程を変化させるエフェクターです。

EDIT A ＜ピッチ＞　変化させる音程を設定します。ツマミの位置がセンターの場合は入力された音と同じ音程で、左に回すと低く、右に回すと高くなります。ピッチの可変範囲は±2オクターブで下記のように変化します。

ボリュームの位置	音程	音程例（入力音 C3）
MAX	+2オクターブ	C5
センター	±0	C3
MIN	−2オクターブ	C1

EDIT B ＜ドライ・レベル＞　元の音をピッチ・シフトされた音に足します。ツマミを右に回すほど、元の音がエフェクト音に足されます。

COMPRESSOR（コンプレッサー）

コンプレッサーはレベルの小さな音は大きく、レベルの大きな音は小さくして、音量の差を圧縮し、音の粒立ちをそろえます。

EDIT A ＜センシティビティ＞　コンプレッサーの効き具合を設定します。ツマミが左いっぱいの状態ではなにも効かず、右へ回すほど強く掛かります。

EDIT B ＜アタック＞　コンプレッサーが効くまでのアタックの速さを設定します。ツマミを右へ回すほどアタックが遅くなります。

DISTORTION（ディストーション）

音量を適度に上げることで音を歪ませ、豊かな倍音を与えます。

EDIT A	＜ゲイン＞	歪ませ具合を設定します。ツマミを右に回すほど音が歪みます。
EDIT B	＜レベル＞	出力レベルを調整します。ツマミを右に回すほど、出力レベルが大きくなります。

DECIMATOR（デシメータ）

サンプリング周波数やデータのビット数を低下させて、チープなサンプラーのようなざらざらしたサウンドをつくります。

EDIT A	＜サンプリング周波数＞	ツマミを右に回すとローファイ、左に回すとハイファイな音になります。
EDIT B	＜サンプリング・ビット数＞	ツマミを右に回すとビット数の少ない音（ローファイ）に、左に回すとビット数の多い音（ハイファイ）になります。入力音量が極端に小さいと出力されない場合があります。

RESONATOR（レゾネーター）

バンドパス・フィルターで特定の周波数の音を持ち上げたものを元の波形に加えます。

EDIT A	＜カットオフ周波数＞	バンドパス・フィルターのカットオフ周波数の調整します。ツマミを右に回すほどカットオフ周波数が高くなります。
EDIT B	＜レゾナンス＞	カットオフ周波数付近の音を強調して、音にクセをつけます。ツマミを右に回すほど、レゾナンスが高くなります。レゾナンスを高く設定するとカットオフ周波数や入力音によっては音が歪む場合があります。

FILTER（フィルター）

レゾナンスつきのローパス・フィルターです。カットオフ周波数よりも高い帯域の倍音を削り、音を丸めます。

EDIT A	＜カットオフ周波数＞	ローパス・フィルターのカットオフ周波数の調整します。ツマミを右に回すほどカットオフ周波数が高くなります。
EDIT B	＜レゾナンス＞	カットオフ周波数付近の音を強調して、音にクセをつけます。ツマミを右に回すほど、レゾナンスが高くなります。レゾナンスを高く設定するとカットオフ周波数や入力音によっては音が歪む場合があります。

DELAY（ディレイ）

ディレイはディレイ・タイムがパターンのテンポに自動的に同期するテンポ・ディレイになっています。

EDIT A	＜タイム＞	ディレイ・タイム（11 ms ~ 2048 ms）を設定します。ツマミを右に回すほどディレイタイムが長くなります。
EDIT B	＜フィードバック・レベル＞	ディレイのフィードバック量とレベルの調整をします。右に回すほどフィードバック量とレベルが大きくなります。

WAH（ワウ）

カットオフ周波数をLFOでコントロールするワウです。

EDIT A	＜LFO レイト＞	カットオフ周波数の LFO のスピードを調整します。ツマミを右に回すほど LFO のスピードが速くなります。
EDIT B	＜カットオフ周波数＞	カットオフ周波数の調整します。ツマミを右に回すほどカットオフ周波数が高くなります。

エラーメッセージ

Er.1 書き込みができませんでした。

Er.3 本体またはスマートメディアの空き容量が足りません。保存するにはデータを削除して十分な空き容量を確保してから保存を実行してください。スマートメディアに FADERBOARD のデータを保存するには 4 MB 以上の空き容量が必要です。

Er.4 スマートメディアからのファイルの読み込み（再生）ができません。ファイルの形式が違うか、破損しています。読み込むことができるファイルは FADERBOARD のファイルと、WAV ファイル（8 bit および 16 bit のモノラル）、AIFF ファイル（8 bit および 16 bit のモノラル）です。

Er.7 スマートメディアからのファイルの読み込み、またはスマートメディアへの保存の途中でエラーが発生しました。

Er.8 スマートメディア上に FADERBOARD が認識できるファイルがありません。

Er.9 スマートメディアのライトプロテクトシールが貼られています。スマートメディアのライトプロテクトシールをはがします。

付録

表 1． シンセプログラム

S.01 : Saw-Pro Synth	S.16 : Cyber Bass-Z1
S.02 : Pulse 25%-MG	S.17 : Ring Bass-MS2k
S.03 : Square	S.18 : Vibrato Sine
S.04 : Triangle-MG	S.19 : NRG Hit
S.05 : Pure Sine	S.20 : Ac.Bass
S.06 : Sine Kick Bass	S.21 : M1 Pick Bass
S.07 : Dark Bass	S.22 : Slap Bass Mix
S.08 : Additive Sine	S.23 : M1 Organ
S.09 : DWGS Bell	S.24 : DWGS Clav
S.10 : Square Oct Mix	S.25 : Voice VS
S.11 : DWGS Digital	S.26 : Pad Chord maj 7
S.12 : 5th Sine	S.27 : M1 Piano Chord Set
S.13 : 5th Square	S.28 : E.P. Chord Set
S.14 : Sync Tri-MS2k	S.29 : Guitar Chord Set
S.15 : HPF Sweep-MS2k	S.30 : Noise

注意：S.27、S.28、S.29はコードの入ったプログラムなので、オクターブを変換しても比例しない部分があります。

表2. ドラムプログラム

	KEY FADER 1 Bass Drum 1	KEY FADER 2 Bass Drum 2	KEY FADER 3 Snare 1	KEY FADER 4 Snare 2	KEY FADER 5 Hihat 1	KEY FADER 6 Hihat 2	KEY FADER 7 Kit 1	KEY FADER 8 Kit 2	KEY FADER 9 Sound 1	KEY FADER 10 Sound 2
d.01 : OG	BD-Dark	BD-99 Dist 1	SD-Dry 4	SD-R&B 4	HH-88 Cl	HH-88 Op	SD-88 Rim	HH-Std 1 Op	HH-Big Chunk Cl	HH-Big Chunk Op
d.02 : Bump	BD-99 1	BD-99 2	SD-Ambi 2	SD-Dry 2	HH-Std 1 Cl	HH-Std 2 Cl	Ride-Edge 2	Zap 1	Synth SE-2	Reverse-BD
d.03 : Tight	BD-99 Dist3	BD-Dry 2	SD-88 2	SD-Ambi 1	Cabasa-Normal	HH-Old Cl	Crash-99	Crash-Normal	Tom-99	Tom-88
d.04 : Mirror Shaker	BD-88 1	BD-88 2	Clap-99	SD-88 1	HH-99 Cl	HH-99 Op	Reverse-SD 1	Reverse-Crash	Claves	Reverse-SD 2
d.05 : Smoov	BD-Dry 4	BD-Squash	SD-R&B 1	SD-Rim 2	HH-Crisp Cl	HH-R&B Cl	Bongo-Hi Op	Bongo-Slap N5	Bongo-Lo Op	Bongo-Lo N5
d.06 : New Jack	BD-Defness	BD-Defness/OHH	SD-Hip	SD-R&B 3	HH-Crisp Op	HH-Std 2 Op	Ride-99	BD-Dry 2	SD-77	SD-Disco
d.07 : Fun House	BD-Analog	BD-ZAP	Clap-88	SD-99 1	Tambourine-Acc	HH-Old Op	Agogo	Synth Perc 1	Cowbell	Cha Cha Bell
d.08 : Rough	BD-Jungle	BD-99 Dist 2	SD-Jungle	SD-Piccolo 2	Ride-Edge 1	Tom-Std Hi	Tom-Std Lo	Tom-Std Floor	Tom-Jazz Hi Rim	Tom-Jazz Hi
d.09 : Tabla	BD-Dry 2	Taiko-Rim	Tabla-Na	Tabla-Tin	Tabla-Mute 1	Tabla-Mute 2	Tabla-Baya Mute 2	Cabasa-Dist Up	Cabasa-Dist Down	Tsuzumi
d.10 : Conga	Conga-Hi Slap 1	Conga-Hi Slap 2	Conga-Hi MtSlap	Conga-Lo Slap	Conga-Lo Slap N5	Conga-Lo MtSlap	Cabasa-EXB	Guiro-Long	Samba Whistle	Udu

ドラムプログラム『d.10』の後に、無音状態のプログラム『---』が含まれています。

表3. ルートキー早見表

1/2 STEP	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ルートキー	C	C♯	D	D♯	E	E♯	F	F♯	G	G♯	A	A♯	B	B♯
別名	—	D♭	—	E♭	—	F	—	G♭	—	A♭	—	B♭	—	C

表4. 音階符号表

キー	音	調
C	ド	ハ
D	レ	ニ
E	ミ	ホ
F	ファ	ヘ
G	ソ	ト
A	ラ	イ
B	シ	ロ

MAJOR = 長調
MINOR = 短調

表5. オクターブ・KEY FADER 対応表

KEY FADER	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オクターブ：+1	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E
オクターブ：0	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E
オクターブ：-1	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E

表6. BPM 設定一覧表

BPM 範囲	変化単位
0 ～ 20	20
20 ～ 30	5
30 ～ 170	1
170 ～ 240	2
240 ～ 400	5
400 ～ 800	10
800 ～ 999	100

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…		送　信	受　信	備　　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1−16 1−16	× ×	記憶される
モード	電源ON時 メッセージ 代用	 × **********	× × ×	
ノート ナンバー：	 音域	35−88 **********	× ×	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	× 9n,v=96 × 8n,v=80	× ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ				
プログラム チェンジ：	 設定可能範囲	○ 0−50 **********	× ×	
エクスクルーシブ		×	×	
コモン	：ソング・ポジション ：ソング・セレクト ：チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	：クロック ：コマンド	× ×	× ×	
その他	：ローカル・オン/オフ ：オール・ノート・オフ ：アクティブ・センシング ：リセット	× × ○ ×	× × × ×	
備考				

モード1：オムニ・オン、ポリ　　モード2：オムニ・オン、モノ　　○：あり

モード3：オムニ・オフ、ポリ　　モード4：オムニ・オフ、モノ　　×：なし

保証、アフターサービスについて

保証書（別途）

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間	お買い上げ日から１年です。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り８年です。
この期間は通産省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持する為に必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
（保証期間中であっても、内容により有償となる場合があります。）

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

便利メモ	お買い上げの日	
	お買い上げ店名	TEL.（　　）　　－

● お客さまがこの機器を分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また修理をお断りする場合がございます。

主な仕様

● **定格入力レベル／インピーダンス**

PHONO :	-45 dBv ／ 47 kΩ
LINE :	-10 dBv ／ 10 kΩ
MIC :	-50 dBv ／ 15 kΩ

● **定格出力レベル／インピーダンス**

LINE :	0 dBv ／ 1 kΩ
HEADPHONE :	150 mW ／ 22 kΩ

● **周波数特性**：　50 ～ 14 kHz

● **ＳＮ比**：　< -70 dBv

● **電源**：　DC 15 V 500 mA

● **消費電力**：　5 W

● **寸法**：　W 460 × D 260 × H 97 mm

● **重量**：　約 4 kg

● 仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了解ください。

ベスタクス株式会社

本社
〒154-0023　東京都世田谷区若林 1-18-6
Tel : 03-3412-7011　Fax : 03-3412-7013
Web : http://www.vestax.com
E-mail : info@vestax.com